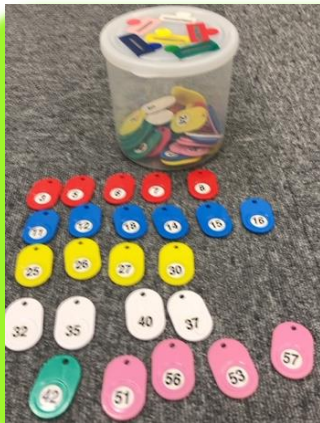


# 支援教育部ニュース

令和2年5月号  
発行：八尾支援学校  
文責：吉村 勇司

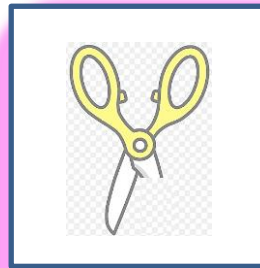
## 自立活動の取り組みに使える教材の紹介です。

今回のニュースでは、私が作った認知発達を促す教材をいくつかご紹介させていただきます。



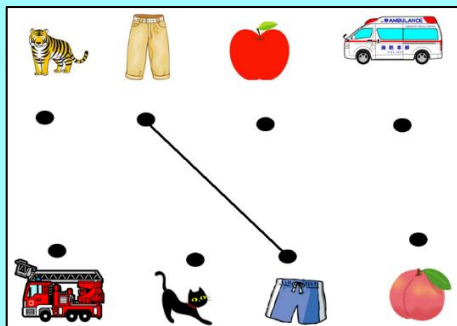
### マッチング

何色かの名札を同じ色の入り口からケースに入れる課題です。自立課題（分類・マッチング）としても適当で、言語理解が難しくても簡単に取り組めるのも利点です。100円均一の商品だけで作ることができます。



### 欠所加筆

イラストの欠けている部分を見つけて書き足す課題です。全体をイメージする力を養う他、「ある」⇔「ない」という概念を教える場合にも利用できます。また、描くことに抵抗を示す子どもでも、欠所加筆であれば、スムーズに描く場合はとても多いので、導入課題としても好ましいと考えます。

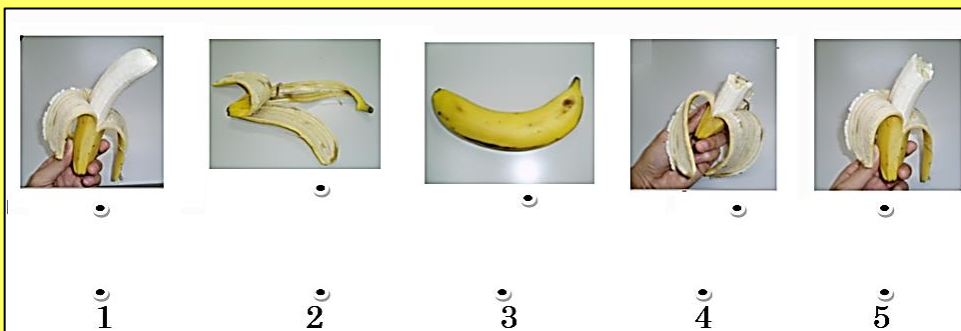


### カテゴリーの理解

ものごとの属性を抽出する力は語彙を増やしていったり認知面の能力を向上させたりするうえで大切な力だと考えます。パターンで学習しないように、類似のプリントをいくつも作って般化を促すことも大切です。

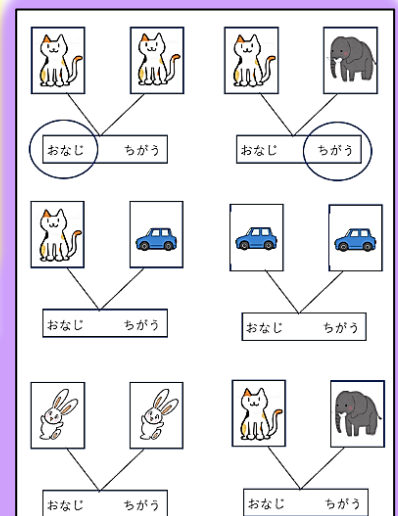
### 時系列の理解（絵画配列課題）

時系列の理解は大切です。1から昇順に数字が増えていくことと時系列がリンクできていると、「1番勉強、2番遊び」といった指示もずっと入りやすくなりますし、何より、本人が見通しを持つ一助となるので心理的安定を促せることが多いです。最初は絵を減らしたりする等して、児童・生徒の実態に合わせた課題作りが望まれます。「最初」「最後」「次」といった概念を指導する際にも利用できます。



### 「同じ」⇔「違う」の理解

「同じ」「違う」という概念を確実に理解できていない子どもは珍しくありません。事物の関係性の理解を促すにも大切な課題だと考えています。この課題も、イラストを変えたり、「おなじ」「ちがう」の文言を入れ替えたりする等して、般化を促す必要があります。同じフォーマットを用いて、「大きい」⇔「小さい」の学習など、色々応用ができます。



以上、僭越ながら、いくつかの教材を紹介させていただきました。先生方が教材を作成される際の参考になれば幸いです。ご入用の先生にはデータをお渡しいたしますので、児童・生徒の実態に即して適宜変更してご利用いただければと思います。地域の先生方からのお問い合わせも受け付けております。